

スポーツ川崎

川崎市体育協会
 広報紙
 <第2号>
 編集・発行
 川崎市体育協会
 広報委員会
 TEL 200-3312
 印刷所
 藤第一サニエー
 TEL 222-2356

より速く より強く より高く

”80をふりかえって

川崎市体育協会
 副会長
 中野一雄

五十五年度の体育協会の活動をふりかえってみますと、まずあげられることは、待望の「川崎市体育協会史」の発刊であります。

昭和二十三年、あの荒廃した世想の中で、先輩諸氏のなみなみならぬ努力によってきずきあげられた歴史を、若輩の我々がまとめさせていただいたことです。

出来あがってみますとまだまだ不十分で満足のいったものではなかったのですが、ひとつのくぎりとしてさせていただきます。

歴史をふりかえり、当初の目的であります、スポーツの振興を図ることにさらに一歩前進する所存であります。つぎに、本機関紙の発

行されたことです。これも予算その他で充分なものとはいえませんが、体育協会の活動を、より多くの方々にご理解いただくという、我々の願いであり、その手始めのころみであります。

又同主旨で、スポーツ教養講座を開催、盛会のうちに終了したこと、そして本年度内部において組織検討委員会を設け、80年代に向けた組織のあり方について協議が進め

られていたなど画期的なことが行なわれました。これらは先にのべましたが、先輩の力によってこれまで育った体育協会がより多くの方々の力によって、より多くの方々の組織として、より多くの方々々に愛される、よりよい市民のスポーツ団体としてのびていくよう、がんばって行きたいと思



私達はまだまだ力不足で充分とはいえませんが、力一杯お手伝いさせていただきますながら、市民のみなさんと共に歩む、体育協会をめざしたいと思

外野席
 夏の高校野球大会は毎年大変熱戦だが、神奈川県代表校は昭和二十四年の湘南高校らしい、法政二高、東海大相模、桐蔭学園、横浜高校と、大体十年に一度全国制覇している。

三十年前に湘南高校が優勝したときは「無欲の勝利」と讃えられたものだが、今夏の横浜高校の渡辺監督は「勝つ為に甲子園へ来たんだぞ」と口ぐせのように選手を励まし続けて、とうとう真紅の大優勝旗を握った。まさに「執念の勝利」といってよからう。

フェアープレーを基本に据えて淡々と無欲で競技を楽しむのもよく、試合に執念を燃して打ち込むのもよい。いづれもスポーツならではの、醍醐味である。そして、競技が終わったあとは、負けても、お互いに相手の健闘を讃えあい、爽やかなファイナルでありたい。

スポーツ今昔

川崎市体育協会

理事長 谷口 恭 男

スポーツ今昔というテーマにて、川崎市の戦後の懐かしかったことや、苦しかった思い出を書きたいと思います。

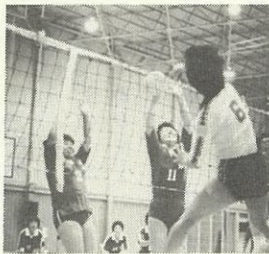
三十数年前の古いことなので、記憶忘れのところもあるかと思いますが、ご容赦願います。

昭和二十三年川崎市体育協会が発足した当時は、市の体育施設といえば富士見公園に軟式野球場が二面、現在の産業文化会館の横に庭球コート三面、現在の競輪場が二種公認の陸上競技場と、大師プール位しかなかったと記憶しています。当時私は市の体育行政にたずさわる職員として、各種体育大会を開催するにあたって会場を設営するのにいちばん苦勞したことが懐かしく思い出されます。

その頃は体育館もなく、柔道大会の時は頭痛のたねでした。適当な会場がないために、川崎公民館の舞台に畳を敷いて大会をおこなったものです。又舞台がせまいために試合中に選手が舞台より下に落ちることがたびたびあり、怪我をしないかとひやひやしたものです。大会が終了するのがいつも夜中の十二時を過ぎるのが普通で、柔道大会というといつもうんざりしたものです。

卓球大会等は会場探しと卓球台を借りることが先決問題で、当時の卓球協会の役員、神山・狩屋さんに相談し協力していただきました。卓球台を会社より借りたものの、運搬するのが大変で、私と狩屋さんが苦勞して運搬した

ことを思い出します。バレーボール大会等は、現在、市ママさんバレーボール連盟会長の浅野さんが当時東芝堀川町工場に勤務していた関係で、会社のコートを借用して大会運営にあたったものです。然しコート数が不足のために臨時のコートを作ったりして急場しのぎをしながら大会終了するという状態でした。



相撲大会は当時の相撲協会理事長、荒川さんが日本鋼管の相撲部の世話役をしていた関係で、会社の相撲場を前借りして、大会の運営一切を相撲協会にまかしたので、私達は非常にらくな大会であったことを思い出します。

弓道大会を開くにしても、どこにも大会を開く様な弓道場がないため、当時の弓道場会の会長、菊地さんが八丁綴駅の近くに個人で素晴らしい弓道場をもっている人がいるというので、その方をお願いして弓道場をお借りして大会を運営した記憶があります。その他軟式庭球大会にしても、コートが三面しかないために大会の運営に非常に苦勞したことが思い出されます。

昭和三十年に神奈川県で秋季国民体育大会が開催されたのを契機として、川崎市にも待望の体育館、相撲場・弓道場・バレーボールコート等沢山の体育施設が整備されその後年々施設は増設され現在にいたったわけです。

現在の体育施設では、まだまだ充分とはいえず、せんが、昔の体育施設をふりかえて見ますと、今昔の感にたえない思いがするものであります。

県総合体育大会

川崎市二年連続
総合優勝

第三十一回神奈川県総合体育大会(県総体)は、二月の冬季大会から七月の夏季大会、そして九月の秋季大会と、県下二十六郡市が参加して、熱戦を展開しました。

川崎市は、二年連続、十四回目の優勝を目指して、選手・役員一同、一丸となって大会にのぞみました。

冬季大会・夏季大会では、若干振いませんでしたが、秋季大会では、バスケットボール・卓球・弓道競技で優勝を勝ちとったほか、バドミントン・陸上・柔道競技等でも上位の成績を獲得し、総合成績で横浜市を抜き、二年連続の十四回目の優勝を遂げることができました。

それでは優勝した三競技の監督からお話しを聞きましょう。

バスケットボール競技

前年に続き優勝でき、本市の県総合大会二連勝に少しでも貢献できましたことを誇りに感じると共に、本年も是非出場権を獲得しチーム並びに本市三連勝を果たさなければという使命感に燃えています。

さて、私共はこの大会に出場する度に次の二点をいつも頭において試合をしてきました。

第一点は、本大会で対戦するチームはほとんどが初対戦のため、試合開始のホイッスルが鳴るまで相手チームのことが皆目見当がつかないためメンバーには気のゆるみがないよう気をつかっています。

第二点は私共のチーム

はクラブチームのため練習会場等の問題で練習が思う存分できないため、練習不足というボロがないようベースを上げたり落したりいつも苦労するところです。

さて、この大会は優勝チームが二チームできることになっていきますので優勝したもののもう一つ感激がありませんが、決着をつけたい気持と、このまま我慢した方が……という気持が半々です。

最後にチーム結成以来三年目に「スポーツ川崎」に掲載していただき、よい記念になりました。

これを機に尚一層の結束をはかり、本市スポーツの向上の一翼を微力ながら担っていききたいと思います。



卓球競技

第三十一回総体卓球競技優勝、戦跡一回戦不戦勝、二回戦対平塚市五対四、三回戦対小田原市五対一、四回戦対秦野市五

対三、決勝戦対藤沢市五対四、毎年九月末にスポーツを愛好する多くの県民に競技会の機会を与え、スポーツを通して健康明朗な心身の育成をはかるとともに各郡市の親睦をはかり、あわせて県民スポーツの祭典とすることを趣旨に開催されている。

県総体も第三十一回と回を重ねその間我が川崎市は総合優勝通算十四回、三十回と三十一回連続優勝の輝やかしい記録の一翼を担うことが出来た

ことを選手共々喜びに思います。この大会は県下二十六郡市代表選手の技量を均一にするために各種目共参加資格に基準

があります。前年度、当年度の全日本、国体等全国

大会出場者は参加出来ないことです。

卓球競技の選手構成は、二十九才以下男子四名、三十才以上男子二名、女子三名、計九名のシングル五先取法です。

市予選会は本大会の二、三ヶ月前に開催しているが前記の参加資格があるため男子は別として当市に於ては女子選手の参加が少ないことが悩みの種で又本大会での成績に直結する問題でもあり、一般市民の内から優秀選手の堀起しが課題で広く市民の皆様の参加を期待しています。選考会で代表に選ばれたそれぞれ異なるチームの選手が一枚の市マークのワッペンを胸に市名入りのゼッケンを背にするだけで、毎日共に練習に励げんで居た様な連帯感を持ち試合に向う姿、この姿こそ県総体開催の意義でありスポーツを愛好する者の素晴らしい姿であると思います。

弓道競技

弓道競技は、九月二十八日、県立武道館の弓道場において、十六郡市の参加によって行なわれました。

本市は、一回戦において南足柄市と対戦し、十三対九でこれを破り、二回戦においては、相模原市を十七対十二で破り、準決勝では、逗子市を十五対十二の少差ながら破り、決勝に進出した。決勝では、小田原市と対戦十七対十四のわずかな差で勝利をおさめた。二年連続の三回目の優勝である。

本市に優勝をもたらした最大の要因は、やはり選手各人が全力を尽したことと、役員・選手一丸となったチーム・ワークのたまものといえよう。

来年も又、本年同様、ベストを尽し、頑張りた

いと思います。

<p>川崎市体育協会 加盟団体の紹介(第二回) 陸上競技協会</p> <p>1 組織系統 川崎市陸上競技協会 神奈川県陸上競技協会 日本陸上競技連盟</p> <p>2 加入登録方法 (1)登録資格―市内在住・在勤者のアマチュア陸上競技者 (2)受付期間―四月一日～七月末日 (3)年間会費―登録会費一名につき一五〇〇円 なお、団体は一〇名以上とする。 (4)登録場所―ショオカワスポーツ店(川崎駅前・日航ビル三F)</p> <p>3 事務局及び連絡者 所在地―東京都品川区戸越五―五―一三 連絡者―大山政次 (TEL)〇三―七八―一四二八〇)</p> <p>4 昭和五五年度登録状況 男―四八二人</p>	<p>5 主要事業 (1)審判講習会―公認審判員資格者及び資格取得希望者 (2)春季・市制記念・秋季市民陸上競技大会―市内在住・在勤・在学者対象 (3)川崎市陸上競技選手権―登録者のみ (4)市民マラソン大会 (5)三浦半島駅伝及び郡市対抗駅伝大会への選手派遣 (6)県大会・全国大会に選手・役員の派遣</p> <p>なお、登録者には、年間行事の大会要項を送付する。</p> <p>水泳協会 大師公園のプールに集まっていた「カッパ」どもが、水泳協会の元祖である。その後、工業都市川崎らしく、日本鋼管、東芝、日本電気、富士通などの実業団と市役所の</p>	<p>女―一七人(八月末現在)</p> <p>水泳部が中心となって組織され、高等学校・中学校体育連盟水泳部の代表、さらに小学校体育研究会々員の協力も得て、現在の組織となっている。活動の目標としては、近年その必要性が大きくクローズアップされている国民の健康のための、生涯体育推進の一翼を担って、市民が楽しみながら健康を増進できるような機会を作ると共に、地域の水泳を通じた、そのような活動のお手伝いをしたいと考えている。</p> <p>◎主な活動 毎年八月第一日曜日には、日本水泳連盟主催の「国民皆泳の日」事業の一環として「川崎市学童泳力記録会」を開催し、市内小学校四年生以上の児童が技を競っており、記録的にも全国的水準に達している。</p> <p>八月最終日曜日には、伝統を誇る大師公認プールで市民水泳競技大会を</p>	<p>行なっている。中学・高校・一般・壮年(三〇才以上)男女が熱戦を展開している。特に最近壮年の部参加者が増加し、六〇才以上の方や、主婦の参加が多くなりつつあることは、生涯体育を目指す本協会としては、誠に心強いことである。</p> <p>その他「親子水泳教室」「水泳指導者講習会」の開催、水泳指導講師の派遣等を行なっている。</p> <p>水泳の好きな人、このような活動に協力下さる方が、一人でも多く水泳協会に加盟されるようお待ちしています。</p>	<p>東芝の三チームがあり、又、市協会加盟チームもその数七十有余と横浜市につぐ大帯である。</p> <p>しかしながら、協会の発足が遅れたため、青少年に対するサッカーの指導、育成が極度に遅れており、レベル的にも他の郡市に遅れをとっていることは、まことに残念なことである。</p> <p>そこで協会として、三年計画で以下の事業を重点的にすすめてきた。</p> <p>(1)グランド及び施設の整備拡充 (2)青少年に対する指導・育成 (3)市民へのサッカーの普及</p> <p>以上のことを会長始め全役員と教育委員会ならびに加盟チームの絶大な協力のもとに頑張っている。</p> <p>五十四年秋には、海外遠征で韓国を訪問した。又少年サッカー教室、各種大会の開催と、普及強</p>
---	---	---	---	---

化に、協会役員一同打って一丸となり努力している。

歴史のあさいサッカー協会故今後とも各位の御協力・御支援を切望してやみません。

野球協会

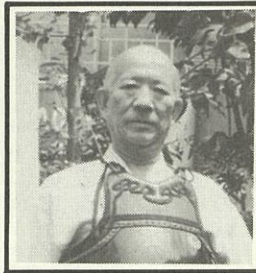
当協会として年間行事を左記のように行っています。

- (一)川崎市長杯選抜軟式野球大会
 - (一)全日本軟式野球大会 (天皇杯)
 - (一)国体軟式野球成年の部
 - (一)国体軟式野球少年の部
 - (一)川崎市高等学校 春・秋季大会 (リーグ戦)
 - (一)川崎市子供会野球連盟大会
 - (一)少年野球教室 (NHK川上哲治氏の少年野球教室)
- 等の主催及協賛の大会を行いまして一般市民並に青少年の野球を通じて、体力の増進のため

に日々努力をしております。

終りに当協会も市内に六支部を置き加盟チームも昭和五十五年度は八百二十三チームとなり年々増加しておる次第です。

皆様方ご支援を今後もお願いたします。



結城 貢先生 (市剣道連盟会長) 逝去さる

昨年、十一月十日、川崎市剣道連盟会長・結城貢先生が心不全のため急逝されました。享年七十才でした。

先生は、愛知県で生れ幼少年期を送り、上京し、専修大学を卒業されまし

た。その後、軍隊生活を送り、市会議員も四期、十六年間つとめました。

先生は、その生涯を剣道一筋にささげられた人でもありました。先生の功績は、筆には尽せぬものがあります。

昭和四十一年、故石川八代次先生から市剣道連盟会長の職を引き継ぎ、その卓越した識見と、誠実な人柄から多くの会員から慕われ、尊敬もされました。

ここに先生の功績の一部を紹介すると共に、心からご冥福をお祈りいたします。

|| おおび ||

前号の本紙二ページの加盟団体紹介欄で「川崎市相撲連盟」の会長名が誤っておりました。「柏木進一」を「平山孝司」に訂正させていただきます。関係各位にご迷惑をおかけしましたことを、深くおわび申し上げます。

トピックス

一、川崎出身 隆三杉 十両

大相撲の話ですが川崎出身で十九才の隆三杉関(渡田中卒)が十両にノ

一、第三十五回国民体育大会にて神奈川県三位ノ栃木県にて行なわれた国体で二十一年ぶりに上位入賞、これもスポーツ愛好者の一致団結のたまもの。

一、三浦駅伝、郡市駅伝大会の活躍

三浦半島の先端を走る三浦駅伝、二位入賞、トップとの差わずか一秒。県下二十四の郡市が集い行なわれた、郡市駅伝大会も本市大活躍、三位入賞。

一、体協主催、各種集い、講座大盛況ノ

(1) 体育の日、記念事業

十月十日、市内各地でスポーツ教室、集いを実施、家族連れで、さらに友達と、参加者が多く盛会のうちを終了。

(2) スポーツ教養講座

十月毎週水曜日の夜間、横浜高校野球部渡辺監督等、スポーツ関係者の講演会を開催。

(3) 救急法正規講習会

スポーツの事故防止と、事故発生時の応急処置法の習得を目的に開催、定員四十名で募集したところ受付開始後すぐに定員オーバー、スポーツと事故防止の問題が認識された。

|| スポーツ活動と 健康診断書 ||

ジョギングなどスポーツブームの繁栄とともに最近、マラソン大会や各種スポーツ教室に参加する際、健康診断書を求められることが多いようである。

健康診断書は、健康診断を受ける側、健康診断書の提出を求める側、また診断をくだす医師、それぞれの立場でその受けとめ方はさまざまでありその取り扱いをめぐってトラブルさえ生じる場合があると聞く。

それは、患者は健康診断の結果異常のないことが分かれば健康の証明と受けとり、医師は現時点において異常を認めないが、将来の予測までではないという。また、健康診断書の提出を求め側にすれば、事故の時の主催者の責任のがれとも考えられる。同時に「不

慮の疾患や生命にかかわる重大な事故など、一切自分の責任として主催者には迷惑をかけません」などといった誓約書の提出を求められる場合もあるようだ。

これらのことから、最近、診断書を書くことを断わる医師もあるように聞く。

国立競技場においても、トレイニングセンターや水泳教室、体操教室などに初めて参加する際には、健康診断書の提出を求めています。これまでの例では、本人が健康のつもりでいたが診断の結果、重大な疾患が発見され、スポーツ教室の参加を認めないという例もあったり、また、要注意者や疾患は認めるがむしろ、積極的にスポーツに参加することはプラスであるといいた例も時にはあり、健康診断書のもつ意味は大きいと考える。決して主催者の責任のがれを目

的としているものではない。

このように健康診断は意味があるし、スポーツの参加、不参加を問わず日常における定期検診をおすすめします。ただ、健康診断書を過大に評価しないことも大切である。数日間かけた人間ドックでさえ、重大な病気を見逃すことがあるのだから、「健康の証明」と考えてはならないであろう。

「月刊国立競技場」
五十五年十二月号
より転載

第三回

市民スケート大会

参加者募集

川崎市体育協会・川崎スケート協会では、川崎市教育委員会と共催で、「市民スケート大会」を開催することになり、次の要領で参加者を募集します。

(1)日時 昭和五十六年

三月二十九日(日)
午後六時~八時

(2)会場 向ヶ丘遊園スケートリンク

(3)対象 市内在住・在勤・在学者(小学生以上)

(4)種目

小学生 ↓ 二〇〇m

四〇〇m

中学生・高等学校

一般 ↓ 四〇〇m

八〇〇m

(5)参加費

小学生 ↓ 五〇〇円

中学生以上

↓ 七〇〇円

(6)申込み期間・方法

昭和五十六年三月十日

六日から三月二十四

日まで、葉書か電

話で川崎市体育協会

事務局(〒二一〇

川崎区砂子一八

一・市教委体育課内

電話 二〇〇一三三

一二)あて、申込む

こと。

どうぞ、家族おさそいあ

わせの上、ご参加下さい。

編集後記

今年の冬の寒さは、例年になく厳しいものでしたが、三月の声を聞くときさすがに春の息吹が感じられます。そして、又、本格的なスポーツ、シーズンの開幕でもあります。さて、昨秋、スタートしました本「スポーツ川崎」も、ようやく第二号の発刊のはこびとなりました。いろいろな試行錯誤を重ねながらも、より素晴らしいものにするべく、広報委員全員、努力をしております。

本紙を読まれました、皆様方のご感想、ご意見、またご希望等がありましたら、ぜひ左記あて、お送りください。広報委員一同、お待ちしております。 〒二一〇 川崎区砂子一八一一 市教委体育課内、川崎市体育協会事務局